

学校法人十文字学園
十文字学園女子大学短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

十文字学園女子大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 十文字学園
理事長名	十文字 一夫
学長名	宮丸 凱史
A L O	武田 比呂男
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	埼玉県新座市菅沢2丁目1番28号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
文学科	国語国文専攻	70
文学科	英語英文専攻	70
	合計	140

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	国文専攻	5
専攻科	英文専攻	5
	合計	10

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

十文字学園女子大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成21年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年6月19日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、開設86年の伝統校である。創設者の「身をきたへ心きたへて世の中に立ちてかひある人と生きなむ」(学園歌)に体现された建学の精神を、併設四年制大学の社会情報、人間生活の各学部、短期大学部文学科の国語国文専攻、英語英文専攻において、時代の要請を踏まえ新たな教育目的・教育目標として発展させてきた。短期大学教育の中で最も古典的な学科と言われてきた、国語国文、英語英文両専攻が、3コース制をとり、新たな展開を図っている。特に、前者のメディア表現コース、後者の児童英語指導者コースは、時代の要請に的確にこたえたもので、そこに新たな可能性を感じ取ることができる。

学生の指導にあたってクラス制・担任制をとり、オフィス・アワーに限らず学生生活・履修指導・進路指導を行っており、教員は親身に学生に対応している。また、職員についても、キャリア支援を組織的に行うなど、学生指導に努めている。教育目標の達成の観点では、単位認定、退学、休学、留年などに関する状況把握、指導は円滑に行われている。

学生支援について、入学支援では、3日間の入学予定者講習会、入学予定者への図書館など施設の開放、学習支援では、基礎学力不足学生への対応、オフィス・アワーの設定、学生生活支援では、学生SS(サービス、サポート)センター、健康管理センターの活動、進路支援では、キャリア支援委員会、キャリアセンターの活動が活発である。

研究では国語国文学会の活動、社会的活動の領域では公開講座の実施、児童英語指導者養成をめぐる地域との連携、海外英語研修が確実に成果をあげている。

財務は、学校法人全体としては課題があるが、将来を見据えた計画がある。

管理運営では、理事長・学長の指導の下、理事会、評議員会が運営され、監査業務も遂行され、教授会、各種委員会も滞りなく運営されている。改革・改善では、早い時期から自己点検評価委員会が組織されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の

主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのため、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創始者の一つの歌に凝縮された建学の精神・教育理念を語り継ぎ、さらに、自己点検評価委員会、将来構想検討会において、その現代的意義を改めて確認し、全学の教育目標の根幹に据えている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- キャリア支援委員会、キャリアセンターなどの取り組みに加えて、共通科目として「キャリアプランニング」(演習)、「インターンシップ」(実習)が開講されている。これらの連携は優れた試みである。

評価領域Ⅵ 研究

- 国語国文専攻では、在学生、卒業生と一緒に短期大学部国語国文学会を組織し、毎年、レベルの高い機関誌『十文字国文』を発刊し、学会を開催(一般公開)している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 国語国文専攻に設けられた国語国文学会の活動に積極的に学生を、活動に参加させている。また、英語英文専攻においては、卒業生や地域の社会人などを対象にした「小学校英語指導者養成講座」を土曜日に開講するなど、地域・行政のニーズを満たす活動を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義科目が演習科目と比べて極めて多いコースがあるので、学生の興味・関心に応じ

て一層学習形態のバランスに配慮されたい。

- シラバスの記載について、評価の観点や授業の概要がより一層学生に分かりやすく明確になるように工夫されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標を「専門的職業人の養成」としていることから、教育目標の達成についてさらなる努力が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人全体として、新学部・新学科開設により財務運営は厳しく、返済計画の確実な遂行、新学部完成による学生納付金の増収、資金・消費支出の改善などによって、今後とも財務の健全化、教育研究経費率の引き上げに取り組んでいく必要がある。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神・教育理念は、創設者十文字ことの短歌「身をきたへ心きたへて世の中に立ちてかひある人と生きなむ」に凝縮されていると位置付けられ、これまで学園歌として歌い継がれてきた。

学生は、入学式での理事長講話、学内の電子掲示板、図書館でのVTR、関連図書のコナーの設置などをとおして理解している。教職員は、学園史、リーフレット、自己点検・評価報告書、年度当初の教授会での理事長講話などによって、絶えず確認している。

現在、教職員が一体となって、創設者の理念を、新しい時代の特徴を踏まえつつ、併設四年制大学の社会情報、人間生活の各学部、当該短期大学の文学科国語国文専攻、英語英文専攻の教育の中で、新たな教育目的・教育目標として具体化していくことに努力している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神にのっとり、従来の国文学や英文学のカリキュラムの伝統を重んじながら、新しい学生のニーズにこたえる教育の開発に努力している姿勢が感じられる。国語国文専攻及び英語英文専攻ともに3コース制を敷き、専攻の中心的科目や教養科目を共通科目にまとめるとともに、学生の現代的ニーズにあったコースの学習内容、科目設定に努力している。今後はより一層学習内容や教育評価を学生に明示するよう努力するとともに、地域の教育力を活用し、学外と連携した学習活動の展開に期待したい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員の採用については、規程に従って厳正に行われている。学生の指導にあたってクラス制・担任制をとり、学生生活・履修指導・進路指導を行っており、教員は親身に学生に対応している。また、職員についても、学科事務職員を置いて一層丁寧な学生指導に努めている。さらに、学習環境の整備によく配慮し、図書館・記念ホール（体育館）・LL 教室・パソコン教室などは快適で、学習活動に活用されている。その結果、教職員の対応や学習環境についての満足度は高い。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成の観点では、単位認定、退学、休学、留年などに関する状況把握、指導は円滑に行われており、授業終了後の授業評価も行われている。また、資格取得では、図書館司書、秘書士、小学校英語指導者資格などへの取り組みが積極的である。特に、単位認定では、ほとんどが本試験で合格し、その評点も高い水準にある。しかし、学生の満足度についての卒業後の調査などについては、今後の取り組みに期待したい。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学に関する支援、学習支援、学生生活支援、進路支援は非常に充実している。入学に関する支援では、入学前教育（3 日間の入学予定者講習会、施設の開放）、学習支援では、基礎学力不足学生対応の科目の開講、オフィス・アワーの設定、学生生活支援では、学生 SS センター、健康管理センターの活動、進路支援では、キャリア支援委員会、キャリアセンターの活動が活発である。

評価領域Ⅵ 研究

教員研修日が週 2 日確保され、個人研究費も併設四年制大学教員と同一水準にある。さらに、学内の発表機会は、短期大学部紀要である『十文字学園女子大学短期大学部紀要』、国語国文専攻に設けられた国語国文学会の機関誌『十文字国文』、併設の四年制大学に設置されている高齢社会生活研究所の紀要である『コルヌイエ』があり、恵まれている。その中で、国語国文専攻では、在学生、卒業生と一緒に学会を組織し、毎年機関誌を発行し、発表会を一般公開している。しかし、そのように旺盛な研究活動が展開されている反面、研究活動が停滞傾向にある教員もみられる。研究活動は教育内容に影響してくるので、奮起が必要と思われる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

英語英文専攻において、卒業生や地域の社会人などを対象とした「小学校英語指導者養成講座」を土曜日に実施している。また、国語国文専攻においても、国語国文学会を公開講座として一般市民に提供している。参加者数も多く、地域貢献に十分寄与している。学

内組織のエクステンションセンター・地域連携協力推進センターも積極的に地域連携に取り組み、周辺 3 市からのニーズを受け入れ、行政との連携の下、社会的活動を行っている。

学生のボランティア活動を組織的・体系的に支援する活動は行っていないが、国語国文学会の運営に学生を運営委員として参画させ、社会的活動を促進している。

カナダ・アメリカ・イギリスの 3 ヶ国に姉妹校、提携校があり、それぞれの教育機関との協力の下、充実したプログラムを提供している。また、毎年 1 人の学生を十文字学園奨学金留学生として、ノーザンライツカレッジから受け入れるなど、文化交流を行っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長のリーダーシップの下、理事会が最高意思決定機関として、適切に運営されている。評議員会は理事会の諮問機関として機能を果たしている。学科、専攻などの設置、変更、廃止など管理運営に関する事項については、理事長主催の下、法人本部長、学長、短期大学部長、専攻主任、事務局長を構成員とした協議会が取り扱う。当該短期大学にかかる重要事項は、学長、短期大学部長、両専攻主任、事務局長、総務部長などが参加する主任会で協議の上、教授会で審議される。教授会、各委員会は学則や規程に基づき適切に運営されている。

職員及びその組織は、併設四年制大学と一体化され、その中で当該短期大学としての事務を取り扱っている。職員は、事務の各部署において必要な知識、情報の獲得、能力の向上などのため各種研修などに派遣されている。人事管理は就業規則及び関係規程に基づき適正に行われている。規程類は学内ネット上に公開され、教職員は常時閲覧可能である。また、教員と職員の間で親睦会が設けられ、交流、相互理解、一体感の醸成に努めている。

評価領域Ⅸ 財務

平成 8 年には併設四年制大学において社会情報学部、平成 14 年には人間生活学部が開設され、校地確保、校舎建設、施設整備に資金を必要とし、この間、非常に厳しい財務運営が行われてきた。しかし、学校法人全体として、返済計画は明確であり、資金収支で学生生徒等納付金、帰属収入が増加しつつある。当該短期大学では、平成 19 年度から資金収支、消費収支とも収入超過となった。全体として、財務体質は健全となりつつある。財務運営は、予算編成、公認会計士監査、監査報告、学内閲覧、ウェブサイトでの公開と適切に行われている。施設の整備、管理運営も適切で、災害対策、防犯対策、コンピュータのセキュリティ対策、省エネルギー及び地球環境保全対策にも積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検評価委員会の開設は平成 5 年で、そのことは、当該短期大学が非常に早い時期から改革・改善の実施体制作り、しかも全学的な課題として取り組んできたことを意味している。自己点検・評価報告書の刊行は平成 12 年度、平成 17 年度となり、活動の取りまとめの作業が遅れ、不定期的な刊行となった。しかし、平成 12 年度の報告書は、最初の

取り組みにもかかわらず、現状分析・改善方策なども明確であり、充実した内容となっている。また、ここで今後の課題として確認された諸課題（国語国文の2コースから3コースへの移行、学生SSセンター・健康管理センターの充実、体育館・芝生・グラウンドなどの整備）のほとんどが、その後実現された。その意味でも最初の自己点検・評価報告書は重要な意味を持っていた。